

NTT東日本は8日、東京

都狛江市で2024年度から

実証中の自動運転バスの試乗

会を開いた。和泉多摩川駅と

多摩川住宅を結ぶ約5・1キロ

のルート上の電信柱にカメラや高性能センサー「LiD

AR（ライダー）」を搭載し、スマートポールを複数設置。同ポールからの情報を特

定区域限定の高速通信規格「ローカル5G」経由でティアフオー（東京都品川区）製小型電気自動車（EV）バスに伝送し、必要に応じて運転手が操作する「レベル2」で自動運転を行った。

ルート上には街路樹や建物で見通しの悪い交差点や、路上停車する車両もある。スマートポールにより自動運転バスに搭載したセンサーのみでは見えにくい範囲まで視野を広げ、運転手が介入することなく円滑な回避行動や停止判断を行えた。

狛江市では多摩川住宅の建て替えによる人口増加が予想される一方、高齢化によるバス運転手不足が深刻化している。今後も実証を続け、27年度以降の自動運転レベル4（特定条件下での完全自動運転）の実装を目指す。



運転手が介入することなく円滑な回避行動や停止判断を行えた

『日刊工業新聞』2026年1月9日付8面